

品川区いじめ対策委員会（第1回）

議事録要旨

1 日時

令和3年7月12日（月）午前10時から午前11時30分まで

2 会場

教育文化会館 第2講習室

3 内容

- (1) 品川区教育委員会教育長より挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 令和2年度の報告（目安箱・アイシグナル・専用電話・まもるっち）
- (4) 令和3年度 いじめ防止対策の取組について
- (5) 令和2年度 いじめ状況について
- (6) 協議 令和3年度のいじめ事例報告について
- (7) 品川区教育委員会教育次長より挨拶

4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

5 発言要旨

(1) 令和2年度の報告（目安箱・アイシグナル・専用電話・まもるっち）

- ・アイシグナルは令和2年度は0件であったが、令和3年度は全児童・生徒に配布のタブレットに導入された影響なのか、すでに9件（生徒の誤操作によるものを含むと15件）の相談が入っている。目安箱よりも、子どもが操作し慣れているツールであるタブレットの方が、悩み相談ツールとしても使いやすいことが考えられる。（教育委員会指導主事）
- ・まもるっちのいじめ相談電話は、令和元年度まではいたずら目的の入電が多かった。しかし令和2年度以降、相談の内容の電話が増えている。内容は、学校や公園での友達とのトラブル、家庭内の悩み、親からの暴力など。子ども家庭支援センターとの連携が必要となるケースもあった。（学校支援チーム HEARTS）
- ・紙での相談窓口案内や目安箱などアナログな方法を継続するかどうかは、今年度末に実態を把握してから検討するのでよいのではないかと。デジタルでの対応にウェイトをかけていくことが必要な時代になっている。子どもが困った時に社会にある資源を使ってSOSを発信することで、自分を守ることができることを学ぶ機会となる意義ある事業である。（岡本委員）

- ・子どもにとってのツールの使いやすさが相談件数の増加に反映されている。(新藤委員)
- ・障害のある子どもへの対応は図られているだろうか。障害のある、なしに関わらず、どの子どものSOSもいつでも受け止められる機能(組織等)が用意されていることが必要である。(岡本委員)

(2) 令和3年度 いじめ防止対策の取組について

○品川区のいじめに対する支援体制、防止のための学校での事業について説明。

○令和3年度からの取組として、全児童・生徒に配布されたタブレットへのSOSフォルダ(いじめ相談ツール「アイシグナル」「チャイルドライン」)の導入について報告。

- ・アイシグナルでは、外部に個人情報が漏れないようになっているのか、子どもには情報管理についてどのように伝えるのかなど気を付ける必要がある。(池田委員)
- ・アイシグナルの相談受付画面に、相談内容は教育委員会と在籍学校に送信されると書いており、子どもの同意の上、相談内容を教育委員会と学校で情報共有をすることができている。アイシグナルについては、端末には情報が残らない仕組みになっており、情報が外部に漏れる危険性が少ない。チャイルドラインのチャット相談は、相談内容が5分で消えるようになっており、個人情報が残らない仕組みになっている。(教育委員会統括指導主事)
- ・タブレットを利用した相談ツールを活用することは、子どもにとって、いじめで困った時にSOSを発する手法の一つとなるだけでなく、様々な困難に出会った時、自分の気持ちや考えを言葉に表してSOSを発して援助を得て、困難に立ち向かう力を育てることもつながる。学校や教師がこうした教育面での幅広い意義を認識した上で、子どもたちに指導していくことが大切である。(岡本委員)
- ・子どもたちのSOSツールの利用動向を見て、今後のSOSツールの設置継続の必要性の検討をしていく必要がある。タブレットという新しいツールを活用することで、子どもが個別にSOSを発信し、相談ケースに個別に対応することが可能となったと言える。(斎藤委員長)

(3) 令和2年度 いじめ状況について

○いじめの認知件数は、国、東京都の調査では令和元年度に比べて増加しているが、品川区では大幅減少している。区内では、認知件数が0件の学校が小学校・義務教育学校前期課程で6校、中学校・義務教育学校後期課程で4校あった。

- ・教員のいじめの認知力の向上を図ること、軽微ないじめも報告する姿勢をもつことが必要と考えられる。(教育委員会指導主事)
- ・認知件数が減っている理由について、様々な要因が考えられるため、認知件数の減少につながったと評価される事業や指導の実際を、具体的に資料を集めて分析しておく必要がある。(岡本委員)